

**中期目標・中期計画の進捗状況に係る
令和6年度自己点検・評価報告書**

国立大学法人富山大学

1. 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価

(1) 概要

第4期中期目標期間においては、年度評価・年度計画が廃止された一方、全ての中期計画に達成度を測るための評価指標の設定が義務付けられ、4年目終了時評価及び6年目終了時評価においては、この評価指標の達成状況に重点を置いた評価が行われることとなりました。

本学では第4期において、17の中期目標を立て、その達成のために34の中期計画及び87の評価指標を設定しました。さらに評価指標のうち定量的なものには毎年度の計画値を、定性的評価指標には毎年度具体的に取り組む事柄を予め設定し、その達成状況を評価指標毎に自己点検することで進捗管理することとしました。

中期目標・中期計画を高い水準で達成できるよう、この自己点検・評価に継続して取り組んでいきます。

(本学の第4期中期目標・中期計画・評価指標の設定状況)

中期目標の構成		中期 目標	中期 計画	評価指標(KPI)		
					定量的	定性的
Ⅰ 教育研究の 質の向上	1 社会との共創	2	3	7	7	－
	2 教育	6	10	21	14	7
	3 研究	3	6	23	18	5
	4 その他重要事項	1	4	12	10	2
Ⅱ 業務運営の改善及び効率化		2	4	9	4	5
Ⅲ 財務内容の改善		1	3	6	6	－
Ⅳ 自己点検・評価及び情報提供		1	2	7	3	4
Ⅴ その他業務運営に関する重要事項		1	2	2	－	2
計		17	34	87	62	25

(2) 点検の対象

全評価指標 87 (うち定量的指標 62, 定性的指標 25)

(3) 点検の観点

中期計画(評価指標単位)の進捗状況

- ・毎年度の計画値, 取組計画の達成状況
- ・今後の計画の妥当性 等

(4) 実施方法・手順

【1】各担当理事・担当課において、評価指標単位で、自己点検シートを記載

【2】総合戦略室において、自己点検シートをレビュー(検証)し、結果を各担当理事・担当課にフィードバック

【3】レビューを踏まえ、次年度の取組内容等について再検討し、自己点検シートを再提出

【4】計画・評価委員会において確認

【5】教育研究評議会、経営協議会、役員会での審議を経て承認

2. 令和6年度自己点検・評価結果

(1) 概要

中期目標の構成		令和6年度 評価指標（KPI）の自己点検結果											
		合計				定量的				定性的			
		Ⅲ 特 筆	Ⅱ 順 調	Ⅰ 遅 れ		Ⅲ 特 筆	Ⅱ 順 調	Ⅰ 遅 れ		Ⅲ 特 筆	Ⅱ 順 調	Ⅰ 遅 れ	
Ⅰ 教育研究 の質の向上	1 社会との共創	7	3	4	0	7	3	4	0	－	－	－	－
	2 教育	21	5	16	0	14	5	9	0	7	0	7	0
	3 研究	23	8	15	0	18	8	10	0	5	0	5	0
	4 その他重要事項	12	1	10	1	10	1	8	1	2	0	2	0
Ⅱ 業務運営の改善及び効率化		9	1	8	0	4	1	3	0	5	0	5	0
Ⅲ 財務内容の改善		6	1	5	0	6	1	5	0	－	－	－	－
Ⅳ 自己点検・評価及び情報提供		7	0	7	0	3	0	3	0	4	0	4	0
Ⅴ その他業務運営に関する重要事項		2	0	2	0	－	－	－	－	2	0	2	0
小計		87	19	67	1	62	19	42	1	25	0	25	0

(評価指標の自己評価)

Ⅲ…特筆すべき進捗状況にある

Ⅱ…順調に進捗している

Ⅰ…進捗に遅れがみられる(R6年度までの計画が未達成)

(2) 評価指標の進捗状況

評価指標の進捗状況については次ページ以降に記載しています。

(3) 「データ集」

定量的指標の進捗状況と今後の計画値をわかりやすく可視化するための「自己点検データ集」を別途作成しています。

中期目標・中期計画の進捗状況に係る令和6年度自己点検・評価結果

※定量的指標の令和6年度実績(数値の詳細)は別添「自己点検データ集」をご覧ください

評価指標の自己評価

Ⅲ…特筆すべき進捗状況にある

Ⅱ…順調に進捗している

Ⅰ…進捗に遅れが見られる(Ｒ6年度までの計画が未達成)

I 教育研究の質の向上 (1)社会との共創

中期目標【1】人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業(農林水産業、製造業、サービス産業等)の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①

中期計画			評価指標			基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策					R4	R5	R6	R7	R8	R9		
1-1 地域の産業・文化の発展への貢献	① 本学の研究の強み・特色であり地域の中核的産業分野でもある薬・ヘルスケア、軽金属及びカーボンニュートラルの領域を中心に、地方自治体及び地域の産業界の政策等決定及び課題解決に積極的に関与し、協働することにより、地域振興に貢献する。	① ア 教育・研究活動等の成果や本学が果たしている機能・役割についての情報発信により増加が期待される地域からの政策等決定・課題解決への関与依頼に対し、積極的に応えるよう教員に要請することで、教員の地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画を推進する。	1	定量的指標	① ア A…地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画件数(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間平均件数から10%増を達成)	第3期平均382.3件	516件	489件	455件				いずれかの年度に1回以上421件	Ⅱ(順調)
	② 国立大学において数少ない芸術系学部を有し、人文科学・社会科学系学部と連携している特色を生かし、文化財の保護・活用拠点として文化の発展に貢献する	② ア 地域の文化資源を調査、研究資料の公開・発表や、文化資源の魅力を発信するプロジェクトを実施、伝統的な技術と現代のデジタル技術を融合した手法による文化財の修復・保存を行い、成果を公開する。	2	定量的指標	② ア A…地域の文化資源の調査・研究、保護・活用に係る取組成果を公開する発表会、展覧会、報告書等の件数(第4期中期目標期間中の平均件数を、第3期中期目標期間平均件数より増加)	第3期平均6件	6件	8件 [平均7件]	8件 [平均7.3件]				第4期平均6件超	Ⅱ(順調)

中期目標【2】我が国の持続的な発展を志向し、目指すべき社会を見据えつつ、創出される膨大な知的資産が有する潜在的可能性を見極め、その価値を社会に対して積極的に発信することで社会からの人的・財政的投資を呼び込み、教育研究を高度化する好循環システムを構築する。③

中期計画			評価指標			基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策					R4	R5	R6	R7	R8	R9		
2-1 知的財産の発掘	① 総合大学ならではの多様な研究成果の中から、本学の研究の強み・特色であり地域の中核的産業分野でもある薬・ヘルスケア、軽金属及びカーボンニュートラルの領域を中心に、独創的な知的財産を発掘し、権利化や社会実装を推進する。	① ア 対外発表前の研究成果から特許化できるシーズを発掘することにより、研究成果の特許化を進める。	3	定量的指標	① ア A…単独及び共同の特許出願件数(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間平均件数から7%増を達成)	第3期平均50件	56件	74件	73件				いずれかの年度に1回以上54件	Ⅲ(特筆)
		① イ 保有する知的財産の評価を適切に行うなど、知的財産戦略を再整備する。	4	定量的指標	① イ A…特許実施許諾収入金額(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間平均金額から10%増を達成)	第3期平均22,285千円	10,994千円	72,603千円	15,826千円				いずれかの年度に1回以上24,514千円	Ⅱ(順調)
2-2 産学官連携活動の推進	① 本学の研究の強み・特色であり地域の中核的産業分野でもある薬・ヘルスケア、軽金属及びカーボンニュートラルの領域を中心に、自治体・企業・高等教育機関との組織対組織の連携を推進し、研究成果を社会に還元・発信・実装する。	① ア 組織的連携協定の締結件数を増加させるため、複数の共同研究実績がある企業・自治体に協定締結を提案する。	5	定量的指標	① ア A…組織的連携協定の締結件数(第4期中期目標期間中に新規の協定を6件締結)	第3期合計6件	4件	3件 [合計7件]	6件 [合計13件]				第4期合計6件	Ⅲ(特筆)
		① イ 共同研究・受託研究の受入額を増加させるため、共同研究契約締結時の積算・提案方式による交渉、公募型受託研究の研究IRを活用したURAによる積極的な関与などにより、採択支援を強化する。	6	定量的指標	① イ A…共同研究・受託研究の受入額(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間平均の10.4億円(令和2年度末時点)から10%増)	(R2末時点の) 第3期平均10.4億円	12.58億円	15.06億円	18.08億円				いずれかの年度に1回以上11.44億円以上	Ⅲ(特筆)
		① ウ 教職員・学生による本学発起案件数を増加させるため、学内の啓発活動の推進、起業希望者支援を充実させる。	7	定量的指標	① ウ A…教職員・学生による本学発ベンチャー認定件数(第4期中期目標期間中に3件認定)	—	1件	0件 [合計1件]	0件 [合計1件]				第4期合計3件	Ⅱ(順調)

I 教育研究の質の向上 (2)教育

中期目標【3】 国や社会、それを取り巻く国際社会の変化に応じて、求められる人材を育成するため、柔軟かつ機動的に教育プログラムや教育研究組織の改編・整備を推進することにより、需要と供給のマッチングを図る。④

中期計画						基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策	No.	種別	評価指標		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
3-1 社会 ニーズに対応した教育 研究組織の 改編・整備	① 国や社会、それを取り巻く国際社会の変化に応じて、必要な教育プログラム・教育研究組織の改編・整備を実施し、人間と自然に対する理解を持ち、社会から求められる能力を身に付けた人材を育成する。 学部においては、普遍的スキル・リテラシー、専門性及び主体的学修態度を身に付け、地域等の課題を解決できる人材の育成体制の構築を目指す。 大学院においては、地域に留まらず我が国全体又は世界での活躍を視野に、高度な専門性と高い基盤的能力を生かして、アカデミアだけでなく産業界、官公庁等においても活躍できる人材の育成体制の構築を目指す。	①ア 学部においては、地域の産業構造や社会ニーズを意識した検証を行った上で、Society 5.0に対応する数理・データサイエンス・AI教育や現代的な課題解決能力を身に付けさせる教育プログラムの改編や教育研究組織の改組を計画し、実施する。	8	定性的 指標	①アA…全学部組織の検証及び対応の状況（地域の産業構造や社会ニーズを意識した学部組織・カリキュラムとなっているかの検証レポートの作成及び対応計画の策定・実施（第4期中期目標期間中に1回））	〔令和6年度実績（定性的指標）〕 ・令和7年度における検証レポートの作成や対応計画の策定に向けて、入口の状況（志願者数、入学者数）を把握することで、入学定員超過率を踏まえた定員管理を実施した。また、出口の状況について、就職者を4つのカテゴリー（企業、官公庁、教員、その他）に区分するとともに、大学院への進学者数の把握にも努め、地域社会への人材輩出に係る情報収集を行った。さらには、退学者数や留学者数等とともに、それに至った理由も紐づけることで、今後のカリキュラムの改編等に向けたエビデンスとなるよう整理した。						Ⅱ（順調）		
		①イ 大学院においては、修了後の多様なフィールドでの活躍を想定した検証を行った上で、異分野の人材との協働や企業等での専門性を生かした就業体験等に対応する教育プログラムの改編や教育研究組織の改組を計画し、実施する。	9	定性的 指標	①イA…全大学院組織の検証及び対応の状況（多様なフィールドで活躍できる人材の育成を想定した大学院組織・カリキュラムとなっているかの検証レポートの作成及び対応計画の策定・実施（第4期中期目標期間中に1回））	〔令和6年度実績（定性的指標）〕 ・令和7年度における検証レポートの作成や対応計画の策定に向けて、入口の状況（志願者数、入学者数）を把握することで、入学定員超過率を踏まえた定員管理を実施した。また、出口の状況について、就職者を4つのカテゴリー（企業、官公庁、教員、その他）に区分するとともに、大学院への進学者数の把握にも努め、地域社会への人材輩出に係る情報収集を行った。さらには、退学者数や長期履修者数等とともに、それに至った理由も紐づけることで、今後のカリキュラムの改編等に向けたエビデンスとなるよう整理した。						Ⅱ（順調）		

中期目標【4】 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)⑥

中期計画					評価指標	基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策	No.	種別			R4	R5	R6	R7	R8	R9		
4-1 課題設定・解決力を身に付けさせる枠組みの整備	① 社会変容に伴う多様なニーズに対応するため、柔軟で複眼的思考力を備え、自ら問題を発見し、解決に導く人材を育成する。	①ア 学生に、自発的に問題発見から複眼的・理論的な分析、問題解決までを導く力を身に付けさせるため、アクティブ・ラーニング型授業の実施割合を充実させる。	10	定量的指標	①アA…アクティブ・ラーニング型授業の実施割合(全授業のうち、6割以上でアクティブ・ラーニング型授業を実施することを、毎年度継続)	R3年度 6割	72%	81%	80%				第4期中 毎年度 6割以上	Ⅲ(特筆)
		①イ 学生が能力の修得状況を自身で把握できる仕組みづくりのため、学生が各科目の修得状況に応じて身に付けることができた能力を可視化するシステム「積算能力評価(レーダーチャート)」を導入し、学修の振り返りを促し、学生の意識的学修につなげる。	11	定性的指標	①イA…本学のDP(ディプロマ・ポリシー)における5つの評価項目の達成度を可視化したレーダーチャートの全学的導入と学生の個別面談におけるレーダーチャートの活用状況(レーダーチャートは令和4年度中に試行し、令和6年度に本格的に導入する。合わせて、個別面談において、レーダーチャートを全学的に活用することを令和6年度に制度化する。)	[令和6年度実績(定性的指標)] 「ディプロマ・ポリシーで定める学生が身につける能力と授業科目との対応表」をWeb公開し、どの科目がどの能力に対応するかを示した。レーダーチャートの表示について修正した。R5中にレーダーチャートによる面談活用について意見照会をしたが、案に対する特段の修正が無かったため、R6第4回教育推進センター会議にて、今後はR5どおり「積算能力表(レーダーチャート等)の活用について」に基づいて実施することを了承・確認し、学部3年次生を対象に面談の際に利用することを依頼した。(1月)						Ⅱ(順調)		
		①ウ 教育の質を向上させるため、学生へのアンケート調査等を実施し、改善する。	12	定性的指標	①ウA…DP(ディプロマ・ポリシー)達成度調査に基づく、検証・改善状況(毎年度、次年度以降に向けた授業内容等の改善計画を策定し、その計画を着実に実施する。)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・令和5年度に策定した改善計画に基づき「1年次と3年次にTOEIC・IPテストの受験機会の提供、教養教育の英語科目において習熟度別クラス分けや学生の興味に応じたクラス分けの実施、1年次を対象とした短期海外派遣プログラムの実施、各学部では専門科目における英語教育やTOEIC講座などの正課外活動の取組強化、英語eラーニングシステムを利用した自己学習の促進」を継続して実施した。 ・令和5年度に学部生を対象として実施したDP達成度調査(卒業時調査)の結果を分析し、分析結果を各学部フィードバックした。学部毎に調査結果の分析及び次年度に向けた改善計画を卒業時調査報告書にとりまとめて、学内限定で公開した。						Ⅱ(順調)		
4-2 教養教育の推進	① Society5.0で活躍できる、幅広い教養及び柔軟な思考力並びに国際的な視野を持つ人材を育成する。	①ア 幅広い教養及び柔軟な思考力を養うため、細分化された既存の授業科目の教育内容を見直し、チームティーチングを推進することで、1つのテーマに対して多面的で幅広く俯瞰できる授業科目を構築する。	13	定量的指標	①アA…多様な教員で一つの授業を担当する授業科目の数(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間末と比べて10%の増加を達成)	R3年度 61科目	80科目	84科目	82科目				R9年度 68科目	Ⅱ(順調)
		①イ 1年次学生を対象として短期海外派遣プログラムを実施する。	14	定量的指標	①イA…短期海外派遣プログラムの1年次学生の平均参加者数(第4期中期目標期間平均で40名、第3期の平均参加者数の2倍)	第3期平均 20名	58名	66名 [平均62名]	66名 [平均63名]				第4期平均 40名	Ⅲ(特筆)
		①ウ 英語の授業において、能力別、テーマ別のクラス分けを導入するとともに、定期的な英語外部試験を実施する。	15	定量的指標	①ウA…1年次学生の英語外部試験の平均得点(4月と翌年1月の2回受験させ、2回目の平均得点を1回目より5%以上上昇させる(第4期中期目標期間を通しての平均))	R3年度 3.5%上昇	10.2%	12.2% [平均11.2%]	10.7% [平均11.0%]				第4期平均 5.0%以上 上昇	Ⅲ(特筆)

4-3 社会のニーズを踏まえた教育プログラムの整備	① 多様化・複雑化している社会のニーズを踏まえたエキスパートの輩出に向け、幅広い知識や深い専門的学識、及び複合的な視野を備えた人材を育成する。	①ア 変化する社会的ニーズに対応するため、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」等の既存の学部横断型教育プログラムを整備、充実させるため、その評価方法(PDCAサイクル)を構築、制度化する。	16	定性的指標	①アA…教育プログラム評価方法の構築及び検証と改善状況(令和4年度末までに教育プログラム評価方法を構築し、令和5年度から制度化する。それに基づき毎年度検証を行い翌年度以降へ向けた改善計画を策定し、その計画を着実に実施する。)	[令和6年度実績(定性的指標)] 学部横断型教育プログラムの卒業生向けアンケート結果を分析し、企画室ミーティングで結果について結果を共有した。(5月)アンケート結果では、プログラムに対する否定的な意見が少なく、大きなプログラム改変は予定していないが、アンケート回答者の属性(修了者か否か)の信頼性が低いこと、回答数が少ないことにより、結果が妥当でない可能性があるため、アンケート時に学籍番号を取得すること、アンケート時期を早めることを決定した。	Ⅱ(順調)
---------------------------	---	---	----	-------	--	---	-------

中期目標【5】 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程)⑦

中期計画			No.	種別	評価指標	基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策					R4	R5	R6	R7	R8	R9		
5-1 研究者/高度職業人の研究基盤力の育成	① 産業界等で必要とする異分野融合の視野を備えた人材を育成する。特に文理融合系の課程においては、文理複眼の視野及び多角的思考力を具有する人材を育成する。	①ア 令和4年度に設置する新大学院の全ての研究科及び学環(研究科等連係課程実施基本組織)において、従来の研究科や専攻の枠組みにとられない領域の異なる複数教員による研究指導を実施する。特に、学環に設置する「社会データサイエンスプログラム」及び「グローバルSDGsプログラム」において、従来の枠組みにとられない文理融合系の領域の異なる複数教員による研究指導を実施する。	17	定量的指標	①アA…研究科及び学環における文系内(人文社会芸術)又は理系内(医薬, 理工及び医薬理工)の異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合(第4期中期目標期間中の平均割合を、令和3年度比20%増)	R3年度 19.6%	33.9%	29.7% [平均31.1%]	30.4% [平均30.8%]				第4期平均 23.5%	Ⅱ(順調)
			18	定量的指標	①AB…持続可能社会創成学環の2つのプログラムにおける文理融合系の異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合(第4期中期目標期間中の平均割合を、当該学環学生全体の50%以上とする)	－	100%	100% [平均100%]	100% [平均100%]				第4期平均 50%以上	Ⅲ(特筆)

中期目標【6】 深い専門性の涵養や、異なる分野の研究者との協働等を通じて、研究者としての幅広い素養を身に付けさせるとともに、独立した研究者として自らの意思で研究を遂行できる能力を育成することで、アカデミアのみならず産業界等、社会の多様な方面で求められ、活躍できる人材を養成する。(博士課程)⑧

中期計画			No.	種別	評価指標	基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策					R4	R5	R6	R7	R8	R9		
6-1 次世代を担う研究者の育成	① 深い専門性のみならず次世代を担う研究者に必須である自由な発想と幅広い専門知識を身に付けさせ、アカデミアや産業界において領域横断的技術の開発及び新たな価値創造を担える人材を育成する。	①ア 令和4年度から修士課程に設置予定の学環(研究科等連係課程実施基本組織)を中心に領域の異なる複数教員による研究指導を実施し、博士課程においてもその体制を生かした指導を実施する。	19	定量的指標	①アA…異分野融合による共著論文数及びその共著論文数の全論文数(大学院博士課程)に占める割合(第4期中期目標期間中の平均割合を、令和3年度比20%増)	R3年度 33.3%	31.62%	55.63% [平均43.88%]	49.19% [平均46.00%]				第4期平均 39.96%	Ⅱ(順調)
6-2 社会の多様な分野で活躍できる博士課程学生の育成	① 優秀な大学院博士課程学生を対象に、研究力向上、キャリアパス支援に向けた様々な取組を提供し、アカデミアや民間企業等で幅広く活躍できる人材を育成する。	①ア「科学技術イノベーション創出に向けたフェローシップ創出事業」及び「次世代研究者挑戦的研究プログラム」採用学生の論文投稿及び国際学会発表の支援による研究力向上、インターンシップ参加などのキャリアパス支援に向けた様々な取組を提供する。	20	定量的指標	①アA…論文投稿数及び国際学会発表数(「科学技術イノベーション創出に向けたフェローシップ創出事業」及び「次世代研究者挑戦的研究プログラム」採用学生が、いずれかを毎年度1回以上投稿又は発表)	R3年度 一人当たり 2.5回	2.2回	2.3回	2.4回				第4期中 毎年度 一人当たり 1回以上	Ⅲ(特筆)

中期目標【7】 医師や学校教員など、特定の職業に就く人材養成を目的とした課程において、当該職業分野で必要とされる資質・能力を意識し、教育課程を高度化することで、当該職業分野を先導し、中核となって活躍できる人材を養成する。⑩

中期計画			No.	種別	評価指標	基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策					R4	R5	R6	R7	R8	R9		
7-1 医師養成課程の高度化	① 高度医療や地域の医療に貢献するため不断の医学教育改革に努め、医師養成課程の高度化を図る。	①ア 日本医学教育評価機構(JACME)が実施する「医学教育分野別評価」を受審し、評価結果を踏まえて改善に取り組む。	21	定量的指標	①アA…日本医学教育評価機構(JACME)が実施する国際基準に基づく医学教育分野別評価の適合率(令和9年度末までに自己評価で100%適合)	R4年度 56.3%	(本受審) 適合率 56.3%	69.0%	81.7%				R9年度 100%	Ⅱ(順調)

7-2 先進的な教員養成体制の構築による、優れた教員人材の輩出	① 令和4年4月の金沢大学との共同教員養成課程の設置(予定)により、広く教育リソースを持ち寄り、効果的で先進的な教育体制を構築し、優れた教員人材を輩出する。	①ア インクルーシブ教育、ICT教育、英語教育等、現代的課題に対応する先進的教育科目(必修)を開講する。	22	定量的指標	①アA…先進的教育科目の開講数(令和7年度までに146科目開講)	—	8科目	122科目	149科目				R7年度 146科目	Ⅱ(順調)	
		①イ 両大学教員の連携によるきめ細かな学生指導を実施する。	23	定性的指標	①イA…両大学教員の連携による新たな学生指導体制整備状況(令和7年度までにユニットによる4年一貫の学生指導体制を確立し、「教師になるためのノート」の活用や両大学の合同指導を実施)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・合同ユニットによるエクスカージョン(2年次:年2回)やユニット毎に班編成した金沢大学と合同の「野外体験活動(1年次)」をキゴ山ふれあい研修センター及び立山青少年自然の家にて実施(A日程:6/22・6/23、B日程:7/6・7/7)した。 ・3年次教育実習において、石川県での実習を希望する富山大学生(2人)が金沢大学附属学校園において教育実習を実施した。 ・各学生は、「教師になるためのノート」をガイドブック的に利用するほか、課題レポートを蓄積するなど活用した。 ・「共同教員養成課程におけるユニット活動」をテーマとした共同教員養成課程合同FD研修会(R7.1.16)について、双方向システムを使用して両大学合同で実施した。 ・ユニットに所属する学生及び担当教員のサポート体制を構築するため、富山大学教育学部学生ユニット連絡協議会を設置し、学生への発信やユニットに係る問題・調整を要する事項についての対応を実施した。									Ⅱ(順調)
		①ウ 教育委員会との連携による、地域の課題・特性に対応した新たな学修機会を提供する。	24	定量的指標	①ウA…教育委員会との連携強化による新たな学修の履修者数(関連する学修(学校インターンシップ、子どもとのふれあい体験等)の第4期中期目標期間中の履修者合計を、第3期中期目標期間より増加)	第3期合計 951人	165人	166人 [合計331人]	163人 [合計494人]				第4期合計 951人超	Ⅱ(順調)	
		①エ 小学校一種免許状に加え、中学校(高等学校)・特別支援学校・幼稚園のいずれかの二種免許状の取得が卒業要件となっているが、いずれも一種の複数免許状の取得を推奨し、教職に就く意欲を高めるとともに、教職支援センターと連携し、教職特任教授による相談・指導等、教員採用試験の合格者増に向けた取組を実施する。	25	定量的指標	①エA…教員採用試験合格者数(第4期中期目標期間最終年度までに、年間50人以上を合格させる)	—	※教育学部最初の卒業生となる 令和7年度から集計を開始						いずれかの 年度で 1回以上 50人以上	Ⅱ(順調)	

中期目標【8】 データ駆動型社会への移行など産業界や地域社会等の変化に応じて、社会人向けの新たな教育プログラムを機動的に構築し、数理・データサイエンス・AI など新たなリテラシーを身に付けた人材や、既存知識をリバイズした付加価値のある人材を養成することで、社会人の職業人としてのスキル向上を支援する。⑪

中期計画						基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策	No.	種別	評価指標		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
8-1 リカレント教育の質向上	① これからの社会人の基礎的能力となる数理・データサイエンス・AI教育を、地域に普及させる。	①ア 県内の小・中・高・特支学校教員のICT、データサイエンスに対する指導力を向上させるためのセミナーを開催する。	26	定量的指標	①アA、①イA…データサイエンス講座及びセミナーの受講生に対するアンケート調査の結果(毎年度、満足度5段階中平均3.5以上の評価を得る)	R3年度 4.1	4.2	4.2	4.2				第4期中 毎年度 3.5以上	Ⅱ(順調)
		①イ データサイエンスに関する講座の開設や、データ分析による課題解決力を向上させるセミナーを開催し、県内行政機関や企業等において、データサイエンスを活用できる人材を養成する。												
	② 課題解決力(共創力)や高度な専門的能力を身に付けられる実践型リカレント教育を実施する。	②ア 本学の修士課程において、遠隔授業数を増やすなど、社会人が就学しやすい環境と制度を整える。	27	定量的指標	②アA…本学修士課程の社会人入学者の人数(第4期中期目標期間中の平均入学者数を、第3期中期目標期間中の平均入学者数より増加)	第3期平均 23.8人	31人	31人 [平均31人]	33人 [平均31.7人]				第4期平均 23.8人超	Ⅱ(順調)
		②イ 地域に根ざした小規模事業者等を対象に、時代に応じて変化する地域特有の課題やニーズに対応できるよう実践型リカレント教育を実施する。	28	定性的指標	②イA…実践型リカレント教育の改善状況(毎年度、アンケート等に基づき検証を行い、翌年度以降へ向けた改善計画を策定し、その計画を着実に実施する)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・「TOYAMA採用イノベーションスクール(12社12人)」「とやま呉西圏域共創ビジネス研究所(11人)」「富山”Re-Design”ラボ(5人)」 「データサイエンス特別講座(31科目 1,503人)」を行った。(カッコ内はそれぞれ参加者数等) ・「TOYAMA採用イノベーションスクール」については修了生に対し満足度調査アンケートを実施した。 ・「とやま呉西圏域共創ビジネス研究所」については修了生のニーズ調査を実施して事業パンフレットを作成した。 ・「富山”Re-Design”ラボ」については、昨年度に引き続き修了生交流イベントを開催し、33人の参加があった。また、「富山”Re-Design”ラボ」について、前年度までの修了生への聞き取り調査に基づき、スタートアップ期間における基礎講座、個人事業主としての活動についての助言・指導、自己分析講座を実施した。加えて修了生に対し満足度調査アンケートを実施した。								

I 教育研究の質の向上 (3)研究

中期目標【9】 真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭

中期計画			No.種別			評価指標	基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策						R4	R5	R6	R7	R8	R9		
9-1 研究IR機能の構築	① 本学が強みとする脳科学分野をはじめ、広く基礎研究・学術研究の継承・発展に必要な資源を確保するため、研究IR機能を有した戦略組織を構築し、学内の教育・研究・財務等の多様なデータを収集・分析することで、戦略的な研究支援活動を行う。	①ア 研究IR機能を有する組織体を設置し、実施するための専門的な人材を育成・配置する。	29	定性的指標	①アA…研究IR機能を有した戦略組織の整備状況(令和5年度までに整備する。規則を制定した上で、研究IR担当URA1名のほか、組織を運営する人員を配置し、執務室を整備する。)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・R5年度に設置した研究IR室を中心に、本学の競争的研究費の採択状況や論文の引用数等の研究力のデータ等进行分析し、執行部に状況共有を行い、戦略的な競争的研究費の申請をサポートした。 研究マネジメント組織の改革を検討するため、研究マネジメント組織部会、同部会にURA組織検討WGを設置し、URA等の機能の明確化と強化について検討した。									Ⅱ(順調)
		①イ 収集・分析データの項目を抽出し、分析体制を整え、戦略的に支援する。	30	定量的指標	①イA…研究IR業務に従事するURAが戦略的に関与して申請する、JST、AMED、NEDOをはじめとした大型の競争的資金の申請数(第4期中期計画期間中に合計15件)	第3期合計1件	1件	10件 [合計11件]	12件 [合計23件]					第4期合計15件	

中期目標【10】 地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。⑮

中期計画			No.種別			評価指標	基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策						R4	R5	R6	R7	R8	R9		
10-1 社会の課題解決・イノベーションに寄与する研究の推進	① 国内外との共同研究を推進し、本学が強みとして保有している重点研究分野(カーボンニュートラル・ヘルスケア・創薬・軽金属・データサイエンス等)の研究や技術(文化財保存等)を地球規模で問題となっている課題の解決や社会のイノベーションにつなげる。	①ア 産業界との共同研究や、各種競争的資金制度を積極的に獲得し活用するため、社会実装を伴うプロジェクトに対し、研究IRを活用した、URAによる積極的な関与などにより、戦略的に研究支援する。	31	定量的指標	①アA…重点研究分野・技術が実施する共同研究・受託研究の件数(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期平均比10%増を達成)	第3期平均94件	125件	161件	187件					いずれかの年度で1回以上104件	Ⅲ(特筆)
			32	定量的指標	①アB…重点研究分野・技術における政策課題的な競争的資金の獲得を支援するため、研究IR業務に従事するURAが戦略的に関与して申請する、JST、AMED、NEDOをはじめとした大型の競争的資金の申請数(第4期中期計画中に合計15件)	第3期合計1件	1件	10件 [合計11件]	2件 [合計13件]					第4期合計15件	Ⅱ(順調)
		①イ 重点領域研究分野・技術における研究活動を、研究IRを活用した、戦略的な論文投稿支援などにより、促進する。	33	定量的指標	①イA…重点研究分野・技術の論文掲載数(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期平均比10%増を達成)	第3期平均225件	227件	296件	289件					いずれかの年度に1回以上248件	Ⅱ(順調)
			34	定量的指標	①イB…重点研究分野・技術の論文被引用件数(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間最終年度比7%増を達成)	R3年度(第3期)12,751件	504件	1732件	6408件					R9年度13,644件	Ⅱ(順調)
	② 熊本大学との連携により設置した先進軽金属材料国際研究機構において、それぞれが強みとして保有している分野を融合した共同研究を推進する。	②ア 先進軽金属材料国際研究機構に、学術研究用設備の共同利用環境を整備し、新たな共同研究実施に結び付ける。	35	定量的指標	②アA…先進軽金属材料国際研究機構における共同研究の件数(第4期中期目標期間中の平均件数を令和3年度比増)	R3年度23件	42件	52件 [平均47.0件]	55件 [平均49.7件]					第4期平均23件超	Ⅲ(特筆)
			36	定量的指標	②アB…先進軽金属材料国際研究機構における共同研究による論文掲載数(第4期中期目標期間中の平均数を令和3年度比5%増)	R3年度24件	28件	28件 [平均28.0件]	39件 [平均31.7件]					第4期平均25.2件	Ⅱ(順調)
			37	定量的指標	②アC…先進軽金属材料国際研究機構における特許の申請件数(第4期中期目標期間中の平均件数を令和3年度比増)	R3年度4件	5件	8件 [平均6.5件]	4件 [平均5.7件]					第4期平均4件超	Ⅱ(順調)

10-2 社会実装を目指した東西医薬学融合研究の推進	① 東西医薬学の融合による新たな疾病予防・治療戦略(次世代型医療科学)を創出し、創薬・育薬といった社会実装へとつなげる。さらに国内及び国際的な伝統医薬学研究(含和漢医薬学研究)の中核的拠点を担える体制を強化する。	①ア 東西医薬学の融合研究として4つの重点研究プロジェクト(1.高齢者疾患対策研究、2.代謝・免疫疾患対策研究、3.未病医療・創薬研究、4.資源開発研究)を重点支援し、当該プロジェクトの論文数や特許申請数を増加させる。	38	定量的指標	①アA…創薬シーズの数(年間4件以上、第4期中期目標期間中延べ24件以上) ※創薬シーズの数はシーズ関連論文発表及び特許申請数の総数とする。	－	14件	15件 [延べ数29件]	35件 [延べ数64件]				毎年度4件以上、第4期延べ24件以上	Ⅲ(特筆)
		①イ 和漢医薬学総合研究所に学術研究用設備の共同利用環境を整備し、産官学連携共同研究を推進する。	39	定量的指標	①イA…産官学連携による共同研究の件数(年間4件以上、第4期中期目標期間中延べ24件以上)	第3期平均6件	6件	19件 [延べ数25件]	19件 [延べ数44件]				毎年度4件以上、第4期延べ24件以上	Ⅲ(特筆)
		①ウ 医学部・薬学部・附属病院と連携して創薬につながる臨床研究;トランスレーショナルリサーチ(基礎研究から臨床現場への橋渡し研究)を推進する。	40	定量的指標	①ウA…臨床研究(特定臨床研究、医師主導治験)の実施数(第4期中期目標期間中に3件以上)	第3期合計2件	3件	2件 [合計5件]	4件 [合計9件]				第4期合計3件以上	Ⅲ(特筆)
		①エ 異分野融合型共同研究や国際共同研究に取り組むことで、国内外研究機関との関係を強化し、国内研究機関との連携協定締結及び海外研究機関との国際協力拠点設置に結び付ける。	41	定量的指標	①エA…国内研究機関との連携協定締結数(第4期中期目標期間中新規1か所以上)	第3期合計2件	0件	1件 [合計1件]	0件 [合計1件]				第4期合計1件以上	Ⅱ(順調)
			42	定量的指標	①エB…海外研究機関との国際協力拠点の設置数(第4期中期目標期間中新規1か所以上)	－	0件	1件 [合計1件]	1件 [合計2件]				第4期合計1件以上	Ⅲ(特筆)

中期目標【11】 若手、女性、外国人など研究者の多様性を高めることで、知の集積拠点として、持続的に新たな価値を創出し、発展し続けるための基盤を構築する。⑰

中期計画			評価指標			基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策	No.	種別			R4	R5	R6	R7	R8	R9		
11-1 若手教員比率の向上	① 本学の研究力の向上及び学問分野の継承と新しい視点の確保のため、若手教員比率を確実に上昇させる。	①ア 教員組織である学術研究部の下に置かれた学系単位で、毎年度数値目標を設定し、達成するための支援策を講じる。	43	定量的指標	①アA、①イA…学系ごと年度ごとの若手教員比率(第4期中期目標期間末までに大学全体で25%)	R3年度末15.8%	19.0%	20.4%	23.3%				R9年度25%	Ⅱ(順調)
		①イ 定期的に達成状況を検証し、支援策の見直しを実施する。												
				①ウ 教員組織である学術研究部の下に置かれた学系単位で、若手教員の指導・育成方針を策定する。	44	定性的指標	①ウA…各学系における若手教員の指導・育成方針の策定状況(令和6年度までに策定)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・各学系における若手教員の指導・育成方針の策定状況を情報共有の上、点検・策定し、各学系における当該方針を学術研究部会議にて情報共有した。						

11-2 ダイバーシティの推進	① ダイバーシティの推進体制を強化し、全学的に女性研究者や多様な人材が活躍できるよう、意識、組織、環境を変える。	①ア 女性研究者を上位職に登用するための育成プログラムを構築することにより、大学運営における意思決定機関等への女性の参画を拡大する。	45	定量的指標	①アA…役員、部局執行部等の大学運営における意思決定機関等の女性数(第4期中期目標期間中の平均人数を、第3期中期目標期間の平均人数より増加)	第3期平均 5.5人	7人	5人 [平均6.0人]	6人 [平均6.0人]				第4期平均 5.5人超	Ⅱ(順調)	
		①イ 若手研究者や女性研究者が、研究に専念できる環境の整備を行うため、学内の校務の縮減を図る「学内サバティカル制度」を創設し、予算を確保し、運用する。	46	定性的指標	①イA…全学的な学内サバティカル制度の制度化及び予算措置(令和5年度までに実施)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・各部局のサバティカル制度の利用者状況の把握。 ・グローバル研究者形成拠点において、令和7年度に向けて予算化を実施した。									Ⅱ(順調)
			47	定量的指標	①イB…本制度に係る支援者数(第4期終了時までに3名以上支援)	－	0名	0名 [合計0名]	1名 [合計1名]					第4期合計 3名以上	Ⅱ(順調)
		①ウ 育児・介護等の支援体制を強化し、制度の周知を図ることで、女性研究者の研究継続をはじめとし、多様な人材が働きやすい環境を構築する。	48	定性的指標	①ウA…育児・介護等の支援体制の理解と意識向上を促し、多様性に関する理解を深めるためのeラーニングを構築する(令和6年度までに構築)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・研究者を対象とし、子育て・介護等と研究活動との両立を支援するため、研究サポーター制度、学会等参加時に係る休日保育利用料補助制度を実施した。 ・教職員の出産・育児との両立支援の環境づくりの一環として、本学における妊娠・出産・育児に関する制度等をまとめた「両立応援！とみだい育児ハンドブック」を発行した。 ・男性育児休業について広く周知するため、男性育児休業取得者の経験談をホームページ及びニュースレターに掲載するとともに、10名分の記事をまとめた刊行物を発行した。 ・育児との両立支援の一環として、子育てと仕事の両立に励む父親同士がコミュニケーションを取れる場として、「富大パパ、”ほっ”と一息たいむ」を開催した。 ・介護相談について、学内周知を積極的に行い、学内にて専門相談員による個別相談を実施した。 ・全学を対象に神明・五福地域包括支援センターの社会福祉士 本田理恵子氏を講師にお迎えし、「家族の介護が始まる前に知っておくべきことーもし今日、介護が始まったら」をテーマに介護セミナーを開催し、支援機関の紹介や介護者になる前の備え等について研修を行うとともに、本学の介護支援制度について周知を行った。(49名参加) ・介護に関する理解促進等を目的とし、附属図書館と連携し、ダイバーシティ推進センター及び附属図書館の保有する介護関連図書を3キャンパスの図書館にて展示した。 ・介護支援の一環として、ダイバーシティ推進センターで保有している介護関連書籍を閲覧・貸出できるダイバーシティライブラリーをセンター内に設置した。 ・外国人研究者の働く環境の向上を目的とし、メーリングリストを作成し、有益な情報を案内するとともに、研究振興課、学術研究・産学連携本部と連携し、初めての英語での科研費セミナーを開催した。 ・多様性を尊重し、それぞれが能力を発揮して活躍できる環境づくりを目的とし、病気の影響で7本の指で演奏活動が続けているピアニストの西川悟平氏をお招きし、ダイバーシティ・シンポジウムを行った。(約200名参加) ・本学の多様な性的指向・性自認(SOGI)の基本方針に基づき、多様なSOGI尊重の環境づくりの一環として、性の多様性に関するポスターを作成し、周知を行った。 ・研究者を対象に、多様な性のありかたを正しく理解し尊重するとともに、自身のアイデンティティや尊厳が守られる環境づくりについて考察する機会として、キャリアアップ研修を開催した。ダイバーシティラウンジ富山のなかがわ氏を講師にお迎えし、基礎知識等をお話いただくとともに、本学の学生で性的マイノリティ当事者の体験談を共有いただいた。(6名参加) ・ダイバーシティラウンジ富山との共催で多様なSOGIについて考えるイベントを開催した。(27名参加) ・多様なSOGIについての理解増進を目的とし、本学公認SOGIサークル やわカフェクラブと連携し、SOGI関連図書の企画展示を3キャンパスの図書館で開催した。 ・教職員が多様なSOGIについて理解を深めるとともに、特に性的マイノリティである学生の対応を行う際の手助けとなるよう、教職員のためのガイドラインを作成した。 ・多様性を尊重する環境づくりの一環として、多目的トイレの表示を多様性を示すピクトグラムに変更するとともに、文言を日本語と英語の併記とした。 ・育児・介護等の支援体制の理解と意識向上を促し、多様性に関する理解を深めるためのeラーニングコンテンツを決定し、要項を策定するとともに予算要求を行った。									

11-3 外国人教員(研究者)配置による国際ネットワーク強化・知の集積拠点の形成	① 留学生の受入れや派遣、さらには国際共同研究の推進のために、国際ネットワークを強化する。	①ア 国際協力拠点を中心に、クロスアポイントメント制度及び学長管理ポイントを活用した外国人教員を配置するとともに、新たにリエゾンプロフェッサー制度(仮称)を構築し連携教員を任命することで、国際ネットワークを強化する。	49	定量的指標	①アA…外国人教員又は連携教員の国際協力拠点への配置数(第4期中期目標期間中に6名配置:1名/年)	－	0名	4名 [合計4名]	2名 [合計6名]				第4期合計 6名	Ⅱ(順調)	
		①イ 国際機構や外国人学長補佐を活用し、全学的な視点から国際協力拠点を強化する。	50	定性的指標	①アB…リエゾンプロフェッサー制度(仮称)の構築(令和4年度中に構築)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・リエゾンプロフェッサー制度に基づき、理学部、芸術文化学部、都市デザイン学部、工学部及び医学部に加え、新たに和漢医薬学総合研究所、グローバル研究者形成拠点からの推薦に基づき、2名のリエゾンプロフェッサーを委嘱した。 ・委嘱したリエゾンプロフェッサーの所属機関や活動報告をみえる化し、国際機構HPIに掲載した。									Ⅱ(順調)
			51	定量的指標	①イA…国際協力拠点数(第4期中期目標期間最終年度までに、6拠点:3(第3期の拠点数)×2)	R3年度末 3拠点	0拠点 [総数3拠点]	4拠点 [総数7拠点]	1拠点 [総数8拠点]					R9年度までに 6拠点	Ⅲ(特筆)

I 教育研究の質の向上（4）その他重要事項

中期目標【12】世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。（附属病院）⑩

中期計画						基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策	No.	種別	評価指標		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
12-1 地域の医療連携と高度医療の強化	① 地方自治体、地域医療機関との連携強化を図り、特定機能病院である当院と他病院の役割分担を明確化し、質の高い医療を提供するとともに地域医療に貢献する。	①ア 地域連携研修会の開催や連携登録医数の増加等により地域の医療機関との連携を強化し、紹介率、逆紹介率及び医師派遣数を、より増加させる。	52	定量的指標	①アA…紹介割合、医療連携協定病院などへの逆紹介割合(第4期中期目標期間中の平均数を、令和3年度の数值より増加)、地域の医療機関への医師派遣数(第4期中期目標期間中の平均数を、第3期中期目標期間中の平均数より増加)	紹介割合 R3年度 53.33%	56%	64% [平均60%]	66% [平均62%]				第4期平均 53.33% 超	Ⅱ(順調)
						逆紹介割合 R3年度 29.65%	34%	37% [平均35%]	39% [平均37%]				第4期平均 29.65% 超	
						医師派遣数 第3期平均 15人	31人	20人 [平均26人]	27人 [平均26人]				第4期平均 15人超	
		①イ 高度医療の強化を行うとともに、センター化等により医療機能の集約・強化を行う。	53	定性的指標	①イA…医療機能の集約・強化の状況(令和5年度までに呼吸器センター(仮称)及びこども医療センター(仮称)、令和6年度までにアレルギーセンター(仮称)を設置するとともに、令和3年度に設置したジェンダーセンターでは保険診療が可能となる施設の認定を取得)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・ジェンダー医療の保険診療が可能となる施設の認定を取得した。 ・令和6年1月に呼吸器・胸郭センターを設置済。								Ⅱ(順調)
			54	定量的指標	①イB…高度医療である一般社団法人外科系学会社会保険委員会連合が定める高難度手術(D・E)や高難度新規医療技術を用いた医療の実績等(第4期中期目標期間中における高度医療の実績を第3期中期目標期間全体の実績より増加)	第3期合計 35,568件	6,649件	6,848件 [合計13,497件]	7,053件 [合計20,550件]				第4期合計 35,568件超	Ⅱ(順調)
		①ウ 検査・診療に利用できるAIアプリケーションを、開発又は導入する。	55	定性的指標	①ウA…検査・診療に利用できるAIアプリケーションの開発や導入状況(令和7年度までに開発と一部導入)	[令和6年度実績(定性的指標)] 検査・診療に利用できるAIアプリケーションの導入に向けて、2件の検討を行った。打合せやプレゼンテーションを通じて、導入時の運用課題や既存システムとの連携等について整理した。これらの取組は、当院における医療DX推進の一環としても位置づけており、今後の業務効率化・標準化にも寄与するものと考えている。								Ⅱ(順調)
12-2 医療人材の養成	① 研修プログラムの充実や自治体と連携した広報を実施し、臨床研修医、専攻医養成の充実に取り組む。	①ア 臨床研修プログラムを充実させるとともに、富山県と連携した広報を実施する。	56	定量的指標	①アA…臨床研修医の採用割合(第4期中期目標期間中における医学科5年時に行う初期研修先調査結果と採用者数の平均割合を、第3期中期目標期間の平均値より増加)	第3期平均 107.6%	117.4%	114.3% [平均116.2%]	92.3% [平均110.0%]				第4期平均 107.6% 超	Ⅱ(順調)
			57	定量的指標	①アB…専攻医の採用者数(第4期中期目標期間中の平均数を、第3期中期目標期間の平均数より増加)	第3期平均 43.6人	39人	39人 [平均39.0人]	37人 [平均38.3人]				第4期平均 43.6人超	I(遅れ)
			58	定量的指標	①アC…研修期間中に実施するアンケート等に基づき計画する、研修プログラムの充実につながる取組件数(第4期中期目標期間中に5件以上)	第3期合計 6件	1件	2件 [合計3件]	1件 [合計4件]				第4期合計 5件以上	Ⅱ(順調)
	② 研修等の受講を通して、医療人材養成に取り組む。	②ア 高度医療に資する研修等の受講について、医師やコメディカル職員の受講を推進する。	59	定量的指標	②アA…医師やコメディカル職員の各種専門的な研修受講数(第3期中期目標期間において、研修受講数が最も多かった令和2年度実績より毎年度増加)	R2年度 175件	196件	208件	211件				第4期中 毎年度 175件超	Ⅱ(順調)

12-3 医師主導治験の強化	① 臨床研究管理センターにおいて、医師主導治験を自機関において継続的に実施できる支援体制を整備し、支援に携わる多職種の人材育成を推進する。	①ア 強みを生かした基礎研究を社会実装化するための段階の一つとして、附属病院が支援する医師主導治験により研究力強化を図る	60	定量的指標	①アA…社会実装に向けたシーズ発掘及び開発推進の件数(第4期中期目標期間で10件以上実施)	－	12件	7件 [合計19件]	9件 [合計28件]				第4期合計10件以上	Ⅲ(特筆)
			61	定量的指標	①アB…社会実装に向けた臨床研究(特定臨床研究、医師主導治験)の支援の件数(第4期中期目標期間中で5件以上実施)	第3期合計11件	4件	4件 [合計8件]	0件 [合計8件]				第4期合計5件以上	Ⅱ(順調)
12-4 医師等の働き方改革の推進	① 持続可能な地域医療体制の構築に寄与するため、医療従事者の働き方改革を推進し、時間外労働時間の縮減を実現する。	①ア 医師が行っている業務を看護師等に移管し、医師の負担を軽減する取組(タスクシフティング)や先進的なシステムを導入する。	62	定量的指標	①アA…医療従事者の時間外労働の縮減時間数(第4期中期目標期間中の平均時間を、令和3年度実績より短縮する)	R3年度374時間	398時間	380時間 [平均389時間]	371時間 [平均383時間]				第4期平均374時間未満	Ⅱ(順調)
		①イ 医師の負担軽減を図るため、特定行為看護師に係る研修の受講を促進する。	63	定量的指標	①イA…看護師の特定行為研修修了者数(毎年5名以上の修了者)	R3年度7名	6名	6名	8名				第4期中毎年度5名以上	Ⅱ(順調)

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化

中期目標【13】 内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。②

中期計画						基準値	実績						目標値	自己評価
No.	表現・達成を目指す姿や水準	表現・達成するための方策	No.	種別	評価指標		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
13-1 学長ガバナンスの強靱化に向けた体制整備	① 学長ガバナンスの強靱化を図るため、学長の大学経営に関する補佐体制を整備する。	①ア 外部有識者を学長補佐等へ登用する。	64	定量的指標	①アA…外部有識者の学長補佐等への登用人数(第4期中期目標期間中の平均人数を、第3期中期目標期間の平均以上)	第3期平均2人	6人	8人 [平均7.0人]	9人 [平均7.7人]				第4期平均2人以上	Ⅲ(特筆)
		①イ 教職員の法人経営能力を開発する。	65	定量的指標	①イA…教職員のセミナー参加人数(第4期中期目標期間中の平均人数を、第3期中期目標期間の平均以上)	第3期平均1人	3人	4人 [平均3.5人]	2人 [平均3.0人]				第4期平均1人以上	Ⅱ(順調)
13-2 内部統制システムの継続的な改善	① 内部統制システムについて計画的に自己点検を行うことで改善点を見出し、継続的に改善を行い、適正かつ実効性のある体制を構築・運用する。	①ア 内部統制システムの計画的な自己点検を実施する。	66	定性的指標 (定量的要素あり)	①アA…当該業務における自己点検の結果とその対応状況(内部統制委員会を年2回開催し、重点事項設定及び自己点検結果の確認を実施)	R3年度2回	2回	2回	2回				第4期中毎年度2回	Ⅱ(順調)

中期目標【14】 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。②

中期計画						基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策	No.	種別	評価指標		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
14-1 設備による教育研究支援	① 平成30年度から実施している設備サポートセンター整備事業の実績を元に、本学の施設・設備等を活用した教育研究を支援する。	①ア 学内の教職員・学生に対して設備説明見学会・講習会、デモ測定技術相談会を開催し、利用を促進する。	67	定量的指標	①アA…対象設備の総利用時間(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間末時点(令和3年度)総利用時間から5%増)	令和3年度 21,612時間	27,964時間	21,789時間	25,640時間				いずれかの年度で1回以上22,693時間	Ⅱ(順調)
14-2 施設マネジメント	① 本学の様々な活動を支える「知の基盤」として、安全・安心で快適なキャンパス環境を実現するため、施設整備及び維持管理を計画的に実施するとともに、本学におけるカーボンニュートラルの実現に向けた取組を推進する。	①ア キャンパスマスタープラン及び施設長寿命化計画に基づき、施設整備を行う。	68	定性的指標	①アA…施設整備及び修繕の状況(毎年度、具体的な整備計画として設定した事業を計画に沿って着実に進める)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・「富山大学キャンパスマスタープランAction Plan2024」への改訂を行い、計画に基づき11件の施設・設備の整備を実施した。								Ⅱ(順調)
		①イ 環境負荷低減の啓発活動推進及び設備機器のエコ改修等を実施する。	69	定量的指標	①イA…エネルギー消費原単位の削減:(比較する年度を基準に、過去5年平均で平均1%/年減)	R3年度 過去5年平均2.3%/年減	1.6%減	0.5%減	1.0%減				R9年度 過去5年平均1%/年減	Ⅱ(順調)
		①ウ カーボンニュートラルに向けたロードマップを策定する。	70	定性的指標	①ウA…CO2削減に向けた仕組みづくりの状況(令和7年度末までにロードマップを策定)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・CO2排出実績、オフサイトPPAの発電実績、全学LED化の整備手法、必要額、環境付加価値のあるエネルギー単価の動向を踏まえた見直しを図った。								Ⅱ(順調)
		①エ キャンパスマスタープラン、施設長寿命化計画及び省エネルギー中長期計画を検証する。	71	定性的指標	①エA…キャンパスマスタープラン、施設長寿命化計画及び省エネルギー中長期計画の改定状況(年度毎の見直し及び必要に応じ改定)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・キャンパスマスタープラン2020の検証及び省エネルギー中長期計画の検証を行った。								Ⅱ(順調)
	② 施設の有効活用と効率的運用に取り組み、本学の活動ニーズに柔軟に対応できるよう、施設マネジメントを推進する。	②ア 施設の有効活用を促進するため、施設利用状況調査を実施する。	72	定性的指標 (定量的要素あり)	②アA…新たなニーズに対応するスペースマネジメントの実施状況(年1回の施設利用状況調査に基づく必要スペースの調整と確保)	第3期平均1回	1回	1回	1回				第4期中 毎年度1回	Ⅱ(順調)

Ⅲ 財務内容の改善

中期目標【15】 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。③

中期計画						基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策	No.	種別	評価指標		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
15-1 財源の多元化・安定的な財務基盤の確立	① 外部資金等の積極的な獲得に取り組みとともに、効率的な資金運用や保有資産の積極的な活用により、外部資金収入及び自己収入額を増加させる。	①ア 各種競争的資金や共同研究、受託研究等の獲得につなげるため、本学内の資源を適切に確保・配分するとともに、保有資産の洗い出しや長期貸付方策等を検討し、計画的に実行する。	73	定量的指標	①アA…外部資金収入及び自己収入額(学生納付金・附属病院を除く)(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間平均の21.5億円から6%増)	第3期平均21.5億円	24.28億円	24.02億円	29.48億円				いずれかの年度に1回以上22.79億円	Ⅱ(順調)

15-2 学内資源配分の最適化	① 本学の機能強化に資するため、学長のリーダーシップの下、機動的・効果的な学内予算配分を実施する。	①ア 部局予算の配分において、大学全体の方向性を勘案した学内評価指標を活用するとともに、その配分枠を拡大する。	74	定量的指標	①アA…学内評価指標等を活用した配分額（第4期中期目標期間中の平均金額を、第3期中期目標期間末（令和3年度）時点から倍増）	R3年度 22,780千円	23,490千円	36,159千円 [平均29,825千円]	44,090千円 [平均34,580千円]				第4期平均 45,560千円	Ⅱ（順調）
		①イ 取り組むべき重点事項の方針等を策定し、毎年度の学内予算編成において当該事業の状況結果を確認し、予算配分に反映する。	75	定量的指標	①アB…重点事項への配分額（第4期中期目標期間中の平均割合を、第3期中期目標期間の大学分事業費に占める重点事項への配分割合（平均17%）以上とする）	第3期平均 17%	17%	18% [平均18%]	18% [平均18%]				第4期平均 17%以上	Ⅱ（順調）
15-3 附属病院の経営基盤の確保	① 医療行政の方向性についての積極的な情報収集と、自院の経営状況分析を基に、附属病院収益を増加させるとともに、医療経費等の削減の取組を戦略的に行之、附属病院の経営基盤の安定化を実現する。	①ア 手術件数等の増加及び施設基準の新規取得に継続して取り組むことで、附属病院の診療報酬を第3期中期目標期間より向上させる。	76	定量的指標	①アA…附属病院の診療報酬請求額（第3期中期目標期間において診療報酬請求額が最も高かった令和2年度実績より毎年増加）	R2年度 21,852百万円	24,104百万円	26,056百万円	26,577百万円				第4期中 毎年度 21,852百万円超	Ⅱ（順調）
		①イ 経営改善ワーキングタスクフォースの活用と、重点指標の目標設定及び達成状況の周知により経営基盤を安定化させる。	77	定量的指標	①イA…減価償却費も加味した病院経営状況（附属病院収入と医療経費の収支差額を第3期中期目標期間平均より増加）	第3期平均 6,887百万円	7,941百万円	8,788百万円 [平均8,364百万円]	8,382百万円 [平均8,370百万円]				第4期 平均 6,887百万円超	Ⅱ（順調）
	② 国、県及び財団法人等が公募する補助金・助成金等を積極的に獲得する。	②ア 国、県、財団法人等の病院関連事業に係る補助金・助成金等について、公募の情報収集を行い、外部資金を積極的に獲得する。	78	定量的指標	②アA…病院関連事業に資する補助金・助成金等の外部資金の獲得件数（継続案件含め）（第4期中期目標期間中の平均件数を、第3期中期目標期間より増加）	第3期平均 16件	22件	25件 [平均23.5件]	28件 [平均25.0件]				第4期平均 16件超	Ⅲ（特筆）

IV 自己点検・評価及び情報提供

中期目標【16】 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。②4

中期計画						基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策	No.	種別	評価指標		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
16-1 エビデンスベースの法人経営	① IR(Institutional Research)組織が中心となって、教育・研究・社会貢献等の各領域における戦略・企画担当組織と連携して客観的なデータ分析を実施し、その結果を自己点検・評価のPDCAサイクルに活用することで、エビデンスベースの法人経営を実現する。	①ア 学内の各種データを整理して、可視化し、国立大学法人評価等における自己点検・評価のPDCAサイクルの分析に資するデータの収集を行う。このデータに基づき、IR組織において分析を実施し、評価担当組織「計画・評価委員会」において、年1回の自己点検・評価を行う。	79	定性的指標	①アA…学内データの整理・可視化状況(令和7年度末までにデータ相関図を作成する)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・大学戦略支援室、各機構IR担当者から意見聴取し、「各課で保有するデータ一覧表(案)」のブラッシュアップを行った。							Ⅱ(順調)	
			80	定性的指標 (定量的要素あり)	①アB…自己点検・評価に資する分析の状況(毎年度の自己点検・評価に関するデータ分析報告書等の成果物の作成)	—	1回	1回	1回					第4期中 毎年度 1回

16-2 ステークホルダーへの情報発信と定期的な対話	① 法人・大学に関わる様々なステークホルダーに対し、多様なメディアを使い分け、教育・研究活動等の成果や本学が果たしている機能・役割について情報を発信するとともに、対話・意見聴取を通じて理解と支持を得る。		81	定量的指標	①アA…情報発信に使用したメディアの種別数(テレビ、ウェブ、SNS、パンフレットなどの種別数)(7種のメディアの活用を維持しつつ、新たなメディアが登場した場合は迅速に対応)	R3年度7種	7種	7種	7種				第4期中毎年度7種以上	Ⅱ(順調)
		①ア ウェブ、テレビ、紙媒体等の多様なメディアを使い分け、幅広いステークホルダーに情報を伝える。	82	定量的指標	①アB…プレスリリースの件数(第4期中期目標期間中の平均件数で、年間160件以上)	第3期平均156件	160件	162件 [平均161.0件]	194件 [平均172.0件]				第4期平均160件以上	Ⅱ(順調)
			83	定量的指標	①アC…公式ウェブサイトへのアクセス数(第4期中期目標期間中の平均数で、年間900万アクセス以上)	第3期平均856万アクセス	866万アクセス	937.7万アクセス [平均901.8万アクセス]	927.0万アクセス [平均910.2万アクセス]				第4期平均900万アクセス	Ⅱ(順調)
		①イ ステークホルダーとの間で、定期的な対話・意見聴取を実施し、その結果をウェブサイト等で公表する。	84	定性的指標 (定量的要素あり)	①イA…ステークホルダーとの対話の実施状況(複数のステークホルダーと大学が定期的に対話し、その状況を毎年1回、ウェブサイト等で公表)	第3期平均1回	1回	1回	1回				第4期中毎年度1回	Ⅱ(順調)
		①ウ フォーラム等イベントや公開講座等実施時に本学に対する意見等を聴くアンケートを実施し、大学運営に活用する。	85	定性的指標 (定量的要素あり)	①ウA…大学に対する意見等の活用状況(毎年度、アンケート結果を学長・理事を構成員とする会議で共有し、必要な対応を実施)	第3期平均1回	1回	1回	1回				第4期中毎年度1回	Ⅱ(順調)

V その他業務運営に関する重要事項

中期目標【17】 AI・RPA(Robotic Process Automation)をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。⑤
--

中期計画						基準値	実績						目標値	自己評価
No.	実現・達成を目指す姿や水準	実現・達成するための方策	No.	種別	評価指標		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
17-1 効果的・効率的な業務の実施	① 教育研究及び事務に関わる業務の、効果的・効率的な運営のため、デジタル化・オンライン化とシステムの高度化、データ利活用等のDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進する。	①ア 教育研究及び事務に関する業務のDX(デジタルトランスフォーメーション)化を行うため、全学推進体制を構築するとともに、実施計画を策定し、実行する。	86	定性的指標 (定量的要素あり)	①アA…実施計画の進捗状況(実施体制の構築及び計画の策定、実施計画に基づく取組の達成(毎年度状況を確認))	－	1回	2回	2回				第4期中毎年度1回	Ⅱ(順調)
17-2 デジタル・キャンパスを推進する上での情報セキュリティ対策			87	定性的指標	①アA…「サイバーセキュリティ対策等基本計画」の指標の達成状況(3年毎に実施する評価時に、指標を全て達成)	[令和6年度実績(定性的指標)] ・DX推進に伴い、生成AI技術を安全かつ効果的に活用するための指針として「生成AI利用に関するガイドライン」を策定した。 ・大学との間で、情報セキュリティ水準を客観視し、対策レベルの比較と取組の共有によるセキュリティレベルの向上に資することを目的として、岐阜大学と情報セキュリティ相互監査を新たに実施した。 ・サイバーセキュリティ対策等基本計画を改訂した。								Ⅱ(順調)